

IBM System z ソフトウェア料金体系リファレンス・ガイド



IBM System z ソフトウェア料金体系概要

IBM System z ソフトウェア料金体系は以下を基準に設定されています。

- ソフトウェアが提供する価値に対する料金
- 最も効率のよい環境でソフトウェアを実行する柔軟性
- 予測可能なソフトウェア料金
- 新規アプリケーションのコストの削減
- ワークロード要件に応じた柔軟なソフトウェア料金

用語解説

MSU - MSU は 1 時間当たりの 100 万 CPU（中央演算処理装置）サービス単位として定義され、System z ソフトウェアが実行されるハードウェア・プロセッサの処理能力を表すために使用される単位です。プロセッサ MSU 値は、ハードウェア・ベンダーである IBM あるいはソフトウェア互換ベンダーによって決定されます。

IBM System z Hardware Family		
Full Name	Short Name	Machine Type
IBM zEnterprise 196	z196	2817
IBM zEnterprise 114	z114	2818
IBM System z10 Enterprise Class	z10 EC	2097
IBM System z10 Business Class	z10 BC	2098
IBM System z9 Enterprise Class	z9 EC	2094
IBM System z9 Business Class	z9 BC	2096
IBM eServer zSeries 990	z990	2084
IBM eServer zSeries 890	z890	2086
IBM eServer zSeries 900	z900	2064
IBM eServer zSeries 800	z800	2066
IBM System/390 (S390) Hardware Family		
IBM S/390 Parallel Enterprise Server	n/a	9672
IBM S/390 Multiprise 3000 Enterprise Server	MP3000	7060
IBM S/390 Multiprise 2000 Server	MP2000	2003

Operating Systems from IBM	Operating Systems from other vendors
z/OS	Linux
z/VM	OpenSolaris
z/VSE	
z/TPF	

月額ソフトウェア使用料金（Monthly License Charge：MLC）設定方式

月額ソフトウェア使用料金（MLC）は、毎月繰り返して適用される料金体系です。この使用料金には、製品の使用权とともに、サポート期間中の IBM 製品のサポートを利用する権利も含まれます。

IBM は、メインフレームのお客様の多様なニーズに応えるために各種 MLC 料金設定方式を提供しています。IBM 料金設定方式により、IBM ソフトウェア製品に対する料金と該当の契約条項が設定されています。お客様の目的および環境に応じた MLC 料金設定方式を選択してください（下記「主要 MLC 料金方式」表を参照してください）。選択した料金方式は、z/OS、ミドルウェア、コンパイラー、特定のシステム管理ツールやユーティリティーなどの MLC 製品の料金設定に使用されます。

表 1：主要 MLC 料金方式

	z196	z10 EC z9 EC	z990 z900	9672 MP2000	z114	z10 BC z9 BC	z890	z800	MP3000
Advanced Workload License Charges (AWLC) *+	×				× ⁵				
Variable Workload License Charges (VWLC) *+	× ¹	×	×		× ¹	× ²	× ²	× ²	
Flat Workload License Charges (FWLC)	×	×	×		× ⁵	× ²	× ²	× ²	
Advanced Entry Workload License Charges (AEWLC) *					×				
Entry Workload License Charges (EWLC) *						×	×	×	
Tiered Entry Workload License Charges (TWLC)					×	×	×		
System z New Application License Charges (zNALC) *+	×	×	×		×	×	×	×	
Parallel Sysplex License Charges (PSLC) +	×	×	×	×	× ³	× ³	× ³	× ³	
Midrange Workload License Charges (MWLC) *	×	×				×			
zSeries Entry License Charges (zELC)					× ⁴	× ⁴	× ⁴	×	
Growth Opportunity License Charges (GOLC)									×

表1の注：

* サブキャパシティー料金対象の料金方式

+ 適格並列シスプレックス（Parallel Sysplex）環境での合算対象料金方式

1 z196またはz114サーバーがVWLCシスプレックス構成の一部である場合にのみ、z196またはz114サーバーに対してVWLC料金方式を選択できます。その際、VWLCシスプレックスはz10 EC、z10 BC、z9 EC、z9 BCの少なくとも1つを含み、シスプレックスのAWLC移行料金契約条件が適用されている場合があります。

2 z10 BC、z9 BC、z890、z800に対するVWLCおよびFWLCの利用は、当該サーバーが適格並列シスプレックス環境の一部として構成されている場合に限定されます。

3 z114、z10 BC、z9 BC、z890、z800に対するPSLCの利用は、当該サーバーが適格並列シスプレックス環境の一部を構成している場合に限定されます。

4 z114モデルA01、z10 BCモデルA01、z9 BCモデルA01、z890モデル110に対する料金は、zSeriesエントリー使用料金（zELC）が適用されます。

5 z114に対するAWLCおよびFWLCの利用は、当該サーバーが適格並列シスプレックス環境の一部を構成している場合に限定されます。

サブキャパシティー料金方式

従来メインフレーム環境のソフトウェア使用料金は、当該メインフレームの総処理能力に基づいて決定しており、サーバー上のMSUに基づくソフトウェア料金は、当該サーバーの総処理能力（フルキャパシティー）で決定されていました。サブキャパシティー料金方式では、当該メインフレームのフルキャパシティーより低額な料金で、特定のIBMソフトウェア使用権を得る方法が提供されます。

サブキャパシティー料金の設定方法

サブキャパシティー料金方式では、当該製品が実行される1つあるいは複数の論理区画（LPAR）の処理能力に基づいて特定のIBMソフトウェア製品が使用許諾されます。LPARのキャパシティーは、今日の市場におけるオンデマンドのニーズに応えるために、LPARの4時間経過平均使用量をMSUを単位として測定することで、その最大値に基づいて毎月決定されます。LPAR使用量とソフトウェア課金を関連付けることにより、月次LPAR使用量の増減はソフトウェア料金請求の増減に反映されます。

下図の例で説明しますと、当該月のLPAR Aに対する最大4時間経過平均は73 MSUです。当該月に区画Aのみで実行される製品は、73 MSUという値に基づきサブキャパシティー料金が決定されます。同様にLPAR Bの最大4時間経過平均は52 MSUです。当該月に区画Bのみで実行される製品は、52 MSUという値に基づきサブキャパシティー料金が決定されます。最後に、当該月で同時に両方のLPARで実行される製品の使用料金は、両LPARの同時4時間経過平均使用量の最大値で決定され、この場合98 MSUです。

International Program License Agreement (IPLA) 料金設定方式

International Program License Agreement (IPLA) 料金設定方式は、当該製品の使用許諾を得るための一括前払いの料金方式です。別途、オプションの年額支払いによるサブスクリプション&サポート（S&S）を利用すると、追加料金なしで将来のリリースおよびバージョンが提供され、サポート期間中のIBM製品サポートを受けることができます。

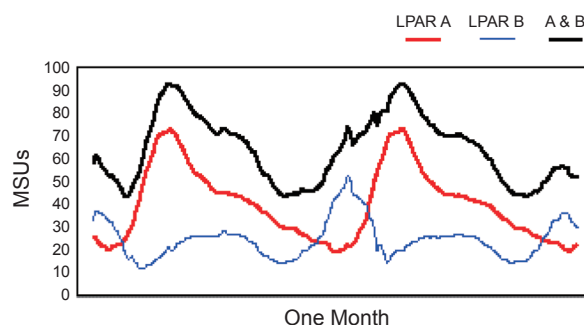
- IPLAソフトウェアは、すべてのIBMサーバーに対して提供されますが、本書の内容はIBM System zサーバー上のIPLAソフトウェアに限定いたします。

System z IPLA 製品に対しては、一般に3つの料金設定方式が適用されます。

- バリュー・ユニットによる料金設定方式は、z/OSで実行されるIPLA製品のほとんどに適用されます。通常バリュー・ユニット料金設定方式ではMSU数に基づきソフトウェア料金が算出され、増分拡張のコストを低減できます。
- z/VM V5とV6および特定z/VMミドルウェアは、エンジン数に基づく料金設定です。エンジン・ベースのバリュー・ユニット料金設定により追加購入する場合、増分拡張のコストを低減できます。
- ほとんどのLinuxミドルウェアも、エンジン数に基づき料金設定されます。パスポート・アドバンテージ（Passport Advantage）契約条件に基づき、エンジン数はプロセッサ・バリュー・ユニットに変換されます。

表 2：System z IPLA 料金設定方式

	IMS Tool, CICS Tools & DB2 Tools	Application Development Tools	WebSphere Products for z/OS & OS/390	z/VM V5	Linux Middleware
Value Unit Pricing	×	×	×		
Engine-Based Value Unit Pricing				×	
Engine-Based Processor Value Unit Pricing					×



サブキャパシティーのメリット

サブキャパシティー料金方式には以下のとおり多くのメリットがあります。

- 特定のIBMソフトウェア料金をLPAR単位できめ細かく設定
- LPAR使用量の月次変化に応じた各月の料金を決定
- 既存ハードウェアのキャパシティー増強に伴うソフトウェア料金増加の割合を抑制
- ワークロード使用量の管理によるソフトウェア・コストの管理
- 4時間経過平均使用量の最大値に基づくソフトウェア料金（使用量のピークを測定した場合と比較して低額）

サブキャパシティー対象製品

特定の IBM 製品がサブキャパシティー料金の対象です。IBM は、サブキャパシティー対象の MLC 製品および IPLA 製品を提供します。MLC 製品では、使用許諾キャパシティーが月ごとに増減する場合があります。一方、IPLA 製品では、使用権の購入後に使用許諾キャパシティーを減らすことはできません。サブキャパシティー対象 MLC 製品および IPLA 製品の例を以下に示します。

- 月額ソフトウェア使用料金（MLC） - z/OS、DB2、IMS、CICS、WebSphere MQ、NetView、Lotus Domino など。詳細な一覧については、ibm.com/systems/z/swprice/reference/exhibits/mlc.htmlを参照してください。
- IPLA - 現在IPLAプログラムの大半がサブキャパシティー料金の対象となっています。実行ベースのIPLAプログラムは、IBM Fault Analyzerなどが該当し、プログラムが実行されるLPAR使用量に基づいて料金が決定されます。参照ベースのIPLAプログラムは、DB2ツール、CICSツール、IMSツールなどが該当し、環境全体にわたるその親プログラム（DB2、CICS、IMS）のサブキャパシティーMSUに基づいて料金が決定されます。詳細なリストについては、ibm.com/systems/z/swprice/reference/exhibits/ipla.htmlを参照してください。

MLC ソフトウェアに対するサブキャパシティー料金

MLC ソフトウェアでは、6 つのサブキャパシティー対応の料金設定方式が利用できます。

- アドバンスト・ワークロード使用料金（Advanced Workload License Charge：AWLC） - z196に対するサブキャパシティー料金。z114に対するAWLCの利用は、当該z114がz196またはz114サーバーで構成される適格並列シスプレックス・クラスターの一部を構成している場合に限定されます。
- ワークロード使用料金（Workload License Charge：WLC） - z10 EC、z9 EC、z990、z900に対するサブキャパシティー料金。z10 BC、z9 BC、z890、z800に対するWLCの利用は、当該サーバーが適格並列シスプレックス・クラスターの一部を構成している場合に限定されます。
- アドバンスト・エントリー・ワークロード使用料金（Advanced Entry Workload License Charge：AEWLC） - z114に対するサブキャパシティー料金。
- エントリー・ワークロード使用料金（Entry Workload License Charge：EWLC） - z10 BC、z9 BC、z890、z800に対するサブキャパシティー料金。
- ミッドレンジ・ワークロード使用料金（Midrange Workload License Charge：MWLC） - z/VSE V4以降が稼働するz196、z10 BC、z10 EC、z9 BC、z9 ECに対するサブキャパシティー料金。
- System z新アプリケーション環境月額料金（System z New Application License Charge：zNALC） - WebSphere Application Server、Domino、SAP、PeopleSoft、Siebelなどで実行されるJavaビジネス・アプリケーションなどの「ニュー・ワークロード」アプリケーション専用のLPARで稼働するz/OSオペレーティング・システムに対するサブキャパシティー料金であり、適用条件をすべて満たしていることが前提となります。zNALCについての詳細は、本書12ページを参照してください。

上記6つの料金方式は、それぞれ2つの方法のいずれかで設定されます。

- フルキャパシティー - 当該料金設定方式の料金が使用され、サーバーの（定格）総処理能力（フルキャパシティー）に基づいて料金が設定されます。
- サブキャパシティー - 当該料金設定方式の料金が使用され、各サブキャパシティー対象製品を実行するLPARの使用量に基づいて料金が設定されます。

サブキャパシティー MLC の料金設定が特定サーバーに正規に設定されている場合に限り、IBM の契約条件に従って、当該サーバーもサブキャパシティー対象 IPLA 製品に対するサブキャパシティー料金が適用されます。

サブキャパシティー MLC 前提条件

各サブキャパシティー対象オペレーティング・システム環境に対してサーバー単位で適格性が判断されます。z/OS の稼働するサーバーがサブキャパシティー対象となる条件は、z/OS への移行が完全に完了した z/Architecture (64 ビット) サーバーであることです。当該サーバー上の z/OS (および z/OS.e) インスタンスすべてが、64 ビット・モードで実行されている必要があります。また、OS/390 のライセンスを解約し、その使用を停止する必要があります。z/VM、z/VSE、z/TPF、Linux が存在している場合でも、z/OS はサブキャパシティー対象です。

z/VSE が稼働するサーバーがサブキャパシティー対象となる条件は、当該サーバーが z/VSE V4 以降への移行が完全に完了した z/Enterprise 196、z/Enterprise 114、System z10、System z9 のいずれかのサーバーであることです。VSE/ESA および z/VSE V3 のライセンスを解約し、その使用を停止する必要があります。z/VM、z/OS、z/TPF、Linux が存在している場合でも、z/VSE はサブキャパシティー対象です。

z/TPF が稼働するサーバーがサブキャパシティー対象となる条件は、当該サーバーが z/TPF への移行が完全に完了した z/Architecture (64 ビット) サーバーであることです。当該サーバー上の z/TPF インスタンスすべてが、64 ビット・モードで実行されている必要があります。また、TPF V3 および TPF V4 のライセンスを解約し、その使用を停止する必要があります。z/VM、z/OS、z/VSE、Linux が存在している場合でも、z/TPF はサブキャパシティー対象です。

サブキャパシティー・レポート・ツール (SCRT)

サブキャパシティー料金方式では、サブキャパシティー・レポート・ツール (SCRT) の使用が必須です。お客様は SCRT を毎月使用して、サブキャパシティー料金方式が適用される z/Architecture (64 ビット) サーバーごとにサブキャパシティー・レポートを毎月生成する必要があります。サブキャパシティー・レポートには、製品単位で課金対象 MSU 値が集計されます。お客様は、サーバーごとに毎月サブキャパシティー・レポートを電子メールまたは Web 経由で IBM に送信する必要があります。当該レポートは、サブキャパシティー料金算出の基礎データとして使用されます。SCRT についての詳細は、ibm.com/systems/z/swprice/subcap/scrt を参照してください。

並列シスプレックス合算

Getting Started Sub-Capacity 料金制度

IBM Getting Started Sub-capacity Pricing for z/OS IPLA ソフトウェア料金方式により、特定 WebSphere プログラムの使用量が低いお客様にエントリー料金が提供されます。当該ワークロードによって消費される LPAR 使用率が 50% 以内の場合は、該当 LPAR に対する最大サブキャパシティー使用料金よりも低額で利用できます。

Getting Started Sub-capacity 料金制度では、以下の料金方式でサブキャパシティーが適用されている必要があります。

- アドバンスト・ワークロード使用料金 (AWLC)
- アドバンスト・エントリー・ワークロード使用料金 (AEWLC)
- ワークロード使用料金 (WLC)
- エントリー・ワークロード使用料金 (EWLC)

サブキャパシティー MLC が適用されるサーバーは、対象の z/OS IPLA プログラムで Getting Started Sub-capacity 料金制度を適用できます。対象プログラムの一覧については、ibm.com/systems/z/swprice/reference/exhibits/ipla_exe.html を参照してください。

Integrated Workload Pricing (IWP)

Integrated Workload Pricing により、z/OS が稼働する z196 および z114 システムのサブキャパシティー使用量のレポーティングが強化されます。その結果、特定 WebSphere 製品（定義プログラム）が CICS または IMS（調整プログラム）と同じ LPAR を共用した場合、月額使用料金（MLC）のプライス・パフォーマンスが向上する場合があります。IWP プログラムの両タイプに対する一覧については、ibm.com/systems/z/swprice/reference/exhibits/iwp.html を参照してください。

並列シスプレックス・アーキテクチャーが提供する機能と柔軟性に加え、並列シスプレックス合算の料金設定によるメリットがもたらされます。結合された並列シスプレックス・クラスターの優れた機能には、シスプレックス全体にわたるデータ共有、高可用性、動的ワークロード・バランシング機能などがあります。

合算料金設定の目的は、お客様のビジネス成長に伴うプライス・パフォーマンスを高めることにあります。合算可能なすべての料金構成（AWLC、WLC、PSLC、zNALC）の主要要素である MSU 当たりの単位コストを下げることで増分拡張のコスト削減が実現します。

適格シスプレックス環境では、製品が実行されるサーバーの MSU 合計値に基づいて合算された MLC ソフトウェア料金が設定されます。その結果、水平方向（新規サーバーの追加）と垂直方向（既存サーバーの増強）のいずれにおいてもシスプレックスを柔軟に拡張できるようになり、同様にソフトウェア・コストの増加の削減が期待できます。並列シスプレックス合算の適格性については、ibm.com/systems/z/swprice/sysplex を参照してください。

非結合環境では、MSU 値は他のいかなるサーバーの MSU 値とも合算されません。

アドバンスト・ワークロード使用料金 (Advanced Workload License Charge : AWLC)

アドバンスト・ワークロード使用料金 (AWLC) は、IBM のサブキャパシティー対応の MLC 料金設定方式の 1 つであり、スタンドアロン環境および他の zEnterprise サーバーを含む適格並列シスプレックス環境の z196 サーバーで利用できます。

AWLC は z114 サーバーで利用可能ですが、当該サーバーが、zEnterprise サーバーのみで構成される適格並列シスプレックス・クラスターの一部である場合にのみ適用されます。並列シスプレックス合算についての詳細は、本書「並列シスプレックス合算」のセクションを参照してください。

お客様が AWLC 料金設定方式を採用した場合、VWLC/PSLC/ULC で料金設定されたすべての既存製品を、AWLC あるいは定額式ワークロード使用料金 (FWLC) 方式に移行する必要があります。

AWLC

AWLC では、すべてのサブキャパシティー対象製品に変動式料金設定が適用されます。AWLC では MSU に基づく料金設定が提供され、増分拡張のコストを低減できます。IBM 契約条件に従って、適格並列シスプレックス・クラスター全体にわたって MSU 合算が適用されます。

AWLC 料金構成 (累積方式)

Base AWLC	3 MSUs
Level 0	4 - 45 MSUs
Level 1	46 - 175 MSUs
Level 2	176 - 315 MSUs
Level 3	316 - 575 MSUs
Level 4	576 - 875 MSUs
Level 5	876 - 1315 MSUs
Level 6	1316 - 1975 MSUs
Level 7	1976+ MSUs

ワークロード使用料金 (Workload License Charge : WLC)

ワークロード使用料金 (WLC) は、z10 EC、z9 EC、z990、z900 サーバーに適用可能な IBM のサブキャパシティー対応の MLC 料金設定方式の 1 つです。ただし、これらのサーバーがスタンドアロン、あるいは構成する適格並列シスプレックス環境の一部である場合にのみ適用されます。

WLC は z10 BC、z9 BC、z890、z800 サーバーで利用可能ですが、当該サーバーが適格並列シスプレックス・クラスターの一部である場合にのみ適用されます。並列シスプレックス合算についての詳細は、本書「並列シスプレックス合算」のセクションを参照してください。

お客様が WLC 料金設定方式を採用した場合、PSLC/ULC で料金設定されたすべての既存製品は、WLC 料金設定方式に移行する必要があります。WLC 料金設定方式には、変動式ワークロード使用料金 (Variable Workload License Charge: VWLC) と定額式ワークロード使用料金 (Flat Workload License Charge: FWLC) の 2 種類の方式があります。

変動式ワークロード使用料金 (VWLC)

WLC では、すべてのサブキャパシティー対象製品に変動式ワークロード使用料金が適用されます。変動式ワークロード使用料金では MSU に基づく料金設定が提供され、増分拡張のコストを低減できます。IBM 契約条件に従って、適格並列シスプレックス・クラスター全体にわたって MSU 合算が適用されます。

VWLC 料金構成 (累積方式)

Base VWLC	3 MSUs
Level 0	4 - 45 MSUs
Level 1	46 - 175 MSUs
Level 2	176 - 315 MSUs
Level 3	316 - 575 MSUs
Level 4	576 - 875 MSUs
Level 5	876 - 1315 MSUs
Level 6	1316 - 1975 MSUs
Level 7	1976+ MSUs

定額式ワークロード使用料金 (FWLC)

サブキャパシティー対象外の FWLC 製品には、各サーバー単位に製品ごとの簡単な単一「定額」料金が適用されます。この定額料金はサーバーのキャパシティーに依存しません。FWLC は、AWLC および WLC と共存できます。

アドバンスト・エントリー・ワークロード 使用料金 (Advanced Entry Workload License Charge : AEWLC)

アドバンスト・エントリー・ワークロード使用料金 (AEWLC) は、z114 サーバーを対象とした、IBM サブキャパシティー対応の MLC 料金設定方式の 1 つです。AEWLC 料金構成では、サブキャパシティー対象製品に対して、MSU に基づく累積料金設定が提供され、増分拡張のコストを低減できます。AEWLC 料金設定方式では、MSU 合算は適用されません。

スタンドアロンの z114

スタンドアロン z114 の z/OS、z/TPF、z/VSE V4 以降では、AEWLC 料金設定方式が適用されます*。すべてのサブキャパシティー対象製品は、AEWLC 料金設定方式を使用して料金設定されます。

その他のサブキャパシティー対象外製品は、Tiered (階段式) EWLC 料金設定方式 (TWLC) を使用して料金設定されます。サブキャパシティー対象外製品の TWLC 料金では、階段構成を使用してサーバーの処理能力に基づき定額の月額料金が適用されます。TWLC 料金は、z114、z10 BC、z9 BC、z890 サーバーのみに適用されます (TWLC 料金は、EWLC Tiered 料金と表記されることがあります)。

AEWLC 料金構成 (累積方式)

Base EWLC	3 MSUs
Level 1	4 - 17 MSUs
Level 2	18 - 30 MSUs
Level 3	31 - 45 MSUs
Level 4	46 - 87 MSUs
Level 5	88 - 175 MSUs
Level 6	176 - 260 MSUs
Level 7	261 - 315 MSUs
Level 8	316+ MSUs

TWLC 料金構成 (定額方式)

Tier A	1 - 11 MSUs
Tier B	12 - 15 MSUs
Tier C	16 - 40 MSUs
Tier D	41 - 75 MSUs
Tier E	76 - 1500 MSUs
Tier F	1501+ MSUs

z/OS を使用した z114 では、適格並列シスプレックス・クラスターの一部として構成された場合、該当契約条件に基づき、スタンドアロン・サーバーとしての料金設定 (AEWLC および TWLC) を選択するか、合算 AWLC または合算 PSLC 料金設定方式を選択することができます。z/OS のお客様が合算料金方式を選択した場合、zELC、AEWLC、TWLC 料金構成は適用されません。

* z114モデルA01はzELCを使用して料金設定されます。本書13ページを参照してください。

エントリー・ワークロード使用料金 (Entry Workload License Charge : EWLC)

エントリー・ワークロード使用料金 (EWLC) は、z10 BC、z9 BC、z890、z800 サーバーで利用でき、サブキャパシティー対応の MLC 料金設定方式の 1 つです。

EWLC 料金構成では、サブキャパシティー対象製品に対して、MSU に基づく累積料金設定が提供され、増分拡張のコストを低減できます。EWLC 料金設定方式では、MSU 合算は適用されません。

スタンドアロンの z10 BC、z9 BC、z890

z/OS および z/TPF を使用するスタンドアロンの z10 BC、z9 BC、z890 では、EWLC 料金設定方式が適用されます*。すべてのサブキャパシティー対象 z/OS 製品は、EWLC 料金設定方式を使用して料金設定されます。

その他のサブキャパシティー対象外製品は、Tiered EWLC 料金設定方式 (TWLC) を使用して料金設定されます。サブキャパシティー対象外製品の TWLC 料金では、階段構成を使用してサーバーの処理能力に基づき定額の月額料金が適用されます。TWLC 料金は、z114、z10 BC、z9 BC、z890 サーバーのみに適用されます (TWLC 料金は EWLC Tiered 料金と表記されることがあります)。

スタンドアロンの z800

スタンドアロンの z800 では、EWLC 料金方式を選択できません。お客様が EWLC 料金設定方式を採用した場合、すべてのサブキャパシティー対象製品を EWLC 料金設定方式に移行する必要があります。その他のサブキャパシティー対象外製品は、zSeries エントリー使用料金 (zSeries Entry License Charge : zELC) 方式を使用して料金設定されます。zELC についての詳細は、本書 13 ページを参照してください。

EWLC 料金構成 (累積方式)

Base EWLC	3 MSUs
Level 1	4 - 17 MSUs
Level 2	18 - 30 MSUs
Level 3	31 - 45 MSUs
Level 4	46 - 87 MSUs
Level 5	88 - 175 MSUs
Level 6	176 - 260 MSUs
Level 7	261+ MSUs

TWLC 料金構成 (定額方式)

Tier A	1 - 11 MSUs
Tier B	12 - 15 MSUs
Tier C	16 - 40 MSUs
Tier D	41 - 75 MSUs
Tier E	76 - 1500 MSUs
Tier F	1501+ MSUs

z/OS を使用した z10 BC、z9 BC、z890、z800 では、適格並列シスプレックス・クラスターの一部として構成された場合、該当契約条件に基づき、スタンドアロン・サーバーとしての料金設定 (EWLC および TWLC、または zELC) を選択するか、合算 AWLC、合算 WLC、または合算 PSLC 料金設定方式を選択することができます。z/OS のお客様が合算料金方式を選択した場合、zELC、EWLC、TWLC 料金構成は適用されません。

* z10 BCモデルA01、z9 BCモデルA01、z890モデル110では、zELCを使用して料金設定されます。本書13ページを参照してください。

ミッドレンジ・ワークロード使用料金 (Midrange Workload License Charge : MWLC)

ミッドレンジ・ワークロード使用料金 (MWLC) は、zEnterprise 196、System z10、または System z9 のサーバーで特に zVSE V4以降をサポートするための MLC 料金設定方式です。IBM は、zVSE ユーザーの多様なニーズに対応するソフトウェアのプライス・パフォーマンス向上を提供するため、ミッドレンジ・ワークロード使用料金を導入しました。

MWLC 料金構成では、サブキャパシティー対象製品に対して、MSU に基づく累積料金設定が提供され、増分拡張のコストを低減できます。MWLC 料金設定方式では、MSU 合算は適用されません。

MWLC では、zVSE V4 以降と 12 の主要 VSE ミドルウェア・プログラムが MWLC 料金設定方式を使用して料金設定されます。その他のサブキャパシティー対象外製品は、TWLC 料金構成を使用して料金設定されます。TWLC 料金についての詳細は、本書「エントリー・ワークロード料金」のセクションを参照してください。

MWLC 料金構成 (累積方式)

Base MWLC	3 MSUs
Level 1	4 - 17 MSUs
Level 2	18 - 30 MSUs
Level 3	31 - 45 MSUs
Level 4	46 - 87 MSUs
Level 5	88 - 175 MSUs
Level 6	176 - 260 MSUs
Level 7	261+ MSUs

並列シスプレックス月額料金 (Parallel Sysplex License Charge : PSLC)

並列シスプレックス月額料金 (PSLC) は、z/OS および z/TPF ワークロード用の MLC 料金設定方式です。製品が実行されるサーバーの定格総処理能力に基づいてソフトウェア料金が設定されます。

PSLC は、スタンドアロンのメインフレーム環境でも、合算のメリットを受けることができる適格並列シスプレックス環境でも適用できます。並列シスプレックス合算についての詳細は、本書「並列シスプレックス合算」のセクションを参照してください。

適格並列シスプレックス環境では、PSLC ソフトウェア料金は、製品が実行されるサーバーすべてに対する総 MSU 値に基づいて設定されます。

スタンドアロン (結合なし) の z196、z10 EC、z9 EC、z990、z900 サーバーに対して、当該サーバーの MSU 値に基づき PSLC 料金が設定されます。スタンドアロンの z10 BC、z9 BC、z890、z800 サーバーでは、PSLC 料金が適用されません。

PSLC は、z114、z10 BC、z9 BC、z890、z800 サーバーで利用できますが、当該サーバーが適格並列シスプレックス・クラスターの一部である場合にのみ適用されます。

PSLC 料金構成 (累積方式)

Base PSLC	3 - MSUs
Tier A	4 - 45 MSUs
Tier B	46 - 175 MSUs
Tier C	176 - 315 MSUs
Level D	316+ MSUs

System z 新アプリケーション環境月額料金 (System z New Application License Charge : zNALC)

System z 新アプリケーション環境月額料金 (zNALC) は、IBM 契約条件に基づき、WebSphere Application Server、Domino、SAP、PeopleSoft、Siebel などで行われる Java ビジネス・アプリケーションのような適格な「ニュー・ワークロード」アプリケーションが稼働する LPAR 上の z/OS 料金を減額します。

zNALC を適用した z/OS は、New Application License Charge (NALC) や z/OS.e オペレーティング・システムなど以前の「ニュー・ワークロード」料金設定に比べ、プライス・パフォーマンスが向上しています。zNALC は適格並列シスプレックス環境全体で合算でき、並列シスプレックス環境全体にわたる適格な「ニュー・ワークロード」の増分拡張のコスト低減を実現します。zNALC は新しいアプリケーションに対する IBM の戦略であり、z/OS.e オペレーティング・システムおよび NALC 料金設定方式に取って代わるものです。

zNALC ワークロードを実行する LPAR の識別は、SCRT レポートに記載される LPAR 名によって行われ、かつ zNALC 料金の適用が適格であることを 1 年ごとに証明する必要があります。zNALC LPAR 内で他のアプリケーションを実行することはできませんが、そのアプリケーションは適格な zNALC アプリケーションをサポートする目的に限られます。

契約条件を含む zNALC についての詳細は、ibm.com/systems/z/swprice/mlc/znaic.html を参照してください。

zNALC 料金構成 (累積方式)

Base zNALC	3 MSUs
Level 0	4 - 45 MSUs
Level 1	46 - 175 MSUs
Level 2	176 - 315 MSUs
Level 3	316 - 575 MSUs
Level 4	576 - 875 MSUs
Level 5	876 - 1315 MSUs
Level 6	1316 - 1975 MSUs
Level 7	1976+ MSUs

新アプリケーション環境月額料金 (New Application License Charge : NALC)

新アプリケーション環境月額料金 (NALC) と呼ばれる料金設定方式は、既に NALC 料金方式を利用しているサーバーに適用する以外には、現在ニュー・ワークロード用に利用することはできません*。NALC は元々、WebSphere などの適格なオンデマンド・ビジネス・アプリケーションや、SAP や PeopleSoft などの適格なエンタープライズ・アプリケーション専用メインフレーム・サーバーを使用しているお客様向けに設定されました。NALC 料金方式が適用された製品に対しては、それぞれの製品ごとに MSU 単位で低額の単一料金が設定され、ソフトウェア料金は当該ソフトウェアが実行されるサーバーの処理能力に基づいて算出されました。NALC は PSLC および WLC のお客様で利用でき、NALC により、z/OS、OS/390、Lotus Domino V5 に対して低料金が設定されました。

サーバーが e-ビジネス専用サーバーであり、サブキャパシティー WLC 適用の場合、z/OS または Domino、あるいはその両方に対する課金対象の NALC MSU 値は、月次サブキャパシティー・レポートに記載された値に基づいて決定されました。これは IBM 契約条件により NALC MSU 値をサーバー全体の処理能力より少なくすることを許諾された場合に限り適用されました。

「ニュー・ワークロード」アプリケーションに対する zNALC 料金方式の導入により、System z プラットフォーム上にニュー・ワークロードを構築する予定のお客様は、NALC の代わりに zNALC の適用をご検討ください。zNALC により、プライス・パフォーマンスの向上がもたらされるとともに、サブキャパシティー料金方式も適用されます。

* NALC 料金方式の営業活動終了については、2007 年 12 月 5 日付け発表レター「z/OS 特定ソフトウェア製品の営業活動終了のお知らせ」(発表レター番号 SWG07023) を参照してください。

zSeries エントリー使用料金 (zSeries Entry License Charge : zELC)

zSeries エントリー使用料金 (zELC) は、当初 z800 サーバーに適用するために設定された MLC 料金設定方式です。

zELC 料金は、当該ソフトウェアが使用許諾された特定の z800 モデル (0E1、0A1、0B1、0C1、001、0X2、0A2、002、003、004) によって決定されます。並列シスプレックス環境を構成する z800 では、PSLC および WLC の契約条件に従って、当該 z800 に対して zELC 料金方式、あるいは合算に基づく該当の料金設定方式を選択できます。

zELC は、z800 サーバー・モデルすべてで適用され、また z114 モデル A01、z10 BC モデル A01、z9 BC モデル A01、z890 モデル 110 サーバーでも適用できます。

機械カテゴリー別月額料金 (Growth Opportunity License Charge : GOLC)

機械カテゴリー別月額料金 (GOLC) は、Multiprise 3000 サーバー用に設定された MLC 料金設定方式です。GOLC 料金は、ソフトウェアが使用許諾された特定の Multiprise 3000 モデル (H30、H50、H70) に応じて決定されます。GOLC は Multiprise 3000 サーバーのみに適用されます。

z/OS.e オペレーティング・システム

z/OS.e は、限定された z/OS 機能を備えた z/OS オペレーティング・システムに対して特別に料金設定された製品でした。z10 BC、z9 BC、z890、z800 サーバー専用でしたが、z/OS.e は現在利用できません*。

z/OS.e では CICS や IMS トランザクションが実行できないなど特定の z/OS 機能が備わっていませんが、それ以外 z/OS と z/OS.e は同じコードで構成されています。

zELC、WLC、PSLC のお客様に対して、エンジンのサイズに関係なく z/OS.e はエンジンごとの単一月額使用料金が設定されていました。EWLC のお客様では、z/OS.e はサブキャパシティー対象製品であり、MSU に基づく EWLC 料金方式でした。z/OS.e 環境で実行されるミドルウェアは、当該 z10 BC、z9 BC、z890、z800 サーバーで選択された基本の料金設定方式 (zELC、PSLC、WLC、EWLC) に従って料金が決定されました。

System z Lifecycle Charge (SzLC)

System z Lifecycle Charge (SzLC) 料金方式は、IBM System z Lifecycle Extension for System z Programs サービス・オファリングに使用されます。SzLC は、製品の料金設定に使用される月額使用料金 (MLC) ではなく、MLC 製品である z/OS のサービスあるいは継続使用のサポート課金のために設定されています。

IBM Lifecycle Extension は、以下の MSU Tier (階段構成) に基づき料金設定されています。適用される Tier (階段) は、発注された Lifecycle Extension 用サーバーの最大処理能力 MSU (対象機械の総処理能力) によって決定されます。適格並列シスプレックスの SzLC Tier (階段) は、z/OS の特定リリースを実行する並列シスプレックス内のサーバーそれぞれの最大処理能力 MSU (対象機械の総処理能力) を合計した MSU 値に基づき決定されます。

* z/OS.e オペレーティング・システムの代替についての詳細は、2007 年 1 月 17 日付け発表レター「System z New Application License Charge (zNALC) ソフトウェア料金の発表」(発表レター番号 LSW07003) を参照してください。

SzLC 料金構成（定額方式）

Tier A	4 - 11 MSUs
Tier B	12 - 21 MSUs
Tier C	22 - 43 MSUs
Tier D	44 - 71 MSUs
Tier E	72 - 128 MSUs
Tier F	129 - 214 MSUs
Tier G	215 - 357 MSUs
Tier H	358 - 714 MSUs
Tier I	715 - 1111 MSUs
Tier J	1112 - 1528 MSUs
Tier K	1529 - 1944 MSUs
Tier L	1945+ MSUs

IBM System z Lifecycle Extension オファリングによってサポートされる z/OS リリースの一覧については、ibm.com/systems/z/swprice/reference/exhibits/lifecycle.html を参照してください。

System z Lifecycle Extension Charge (zLEC)

System z Lifecycle Extension Charge (zLEC) 料金方式は、現在終了している IBM Lifecycle Extension for z/OS V1.7 サービス・オファリングの料金設定に使用されていました。SzLC と同様に、zLEC は月額ライセンス使用料金 (MLC) ではなく、MLC 製品である z/OS V1.7 のサービスのサポート料金でした。

IBM Lifecycle Extension for z/OS 1.7 は、以下の zLEC Tier（階段構成）を使用して z/OS V1.7 が実行されるサーバーそれぞれの最大処理能力 MSU（対象機械の総処理能力）を合算した MSU 値に基づき決定されていました。

zLEC 料金構成（定額方式）

Tier A	4 - 11 MSUs
Tier B	12 - 21 MSUs
Tier C	22 - 43 MSUs
Tier D	44 - 71 MSUs
Tier E	72 - 128 MSUs
Tier F	129 - 214 MSUs
Tier G	215 - 357 MSUs
Tier H	358 - 714 MSUs
Tier I	715+ MSUs

その他の料金方式情報

- S/390計測使用量ソフトウェア料金方式（ULC）
- VSEおよびVMミドルウェアの料金設定
- Linuxミドルウェア
- バージョン間アップグレード

S/390 計測使用量ソフトウェア料金方式（ULC）

IBM S/390 計測使用量ソフトウェア料金方式 (S/390 Usage Pricing または Usage License Charge: ULC) は、PSLC または GOLC が適用されるサーバーにおいて、魅力的な料金設定の代替方法となります。ULC は、使用量が少ないソフトウェア製品を全社に展開する際に、優れたプライス・パフォーマンスの提供を実現しています。ULC を適用した製品では、その製品の使用量に基づいてソフトウェア料金が設定されます。ULC の料金は、DB2、CICS、IMS、WebSphere MQ で利用できます。

ULC の適用

ULC では、年 1 回の「ソフトウェア使用レポート」を提出する必要があります。IBM は、12 カ月分のシステム測定機能 (SMF) データ (レコード・タイプ SMF89) を分析し、「ソフトウェア使用レポート」を生成するために、OS/390 V2 および z/OS に付属のレポート作成ツールを提供します。年間レポートは過去 12 カ月間の使用状況を集計し、次の 12 カ月間に対する ULC の MSU レベルを決定します。

特定の製品における ULC の請求対象 MSU を決定するために、次の算出方法が製品セットごとに適用されます。製品セットには、特定製品に対する使用中のバージョンすべてが含まれます。

- 日単位の値：当該日における、その日の使用量が最大となる時間から取得した MSU 値
- 月単位の値：当該月における、4 番目に高い日単位の MSU 値
- 年単位の値（請求対象値）：当該年における、1 番高い月単位の MSU 値

VSE および VM ミドルウェアの料金方式

MWLC 料金対象外のシステムにある VSE ミドルウェア、および特定の VM ミドルウェア製品は、本書ではまだ触れていない次の 2 つの料金方式を利用できます。

- 機械グループ別月額料金（Graduated Monthly License Charge：GMLC）は、最大 80 MSU のサーバーからなるモデル・グループの料金方式です。
- 拡張ライセンス料金（Extended License Charge：ELC）は、80 MSU を越えるサーバーに対する MSU に基づく料金設定です。

以下の表を参照して、GMLC と ELC のどちらの料金方式を適用すべきか判断してください（MWLC が有効な場合を除く）。

表 3：VSE および VM ミドルウェアの MLC 料金方式

	System z with AWLC or WLC	Standalone z114, z10 BC, z9 BC, or z890	Standalone z800	MP3000	All Others
FWLC	×				
TWLC		×			
zELC			×		
GOLC				×	
GMLC/ELC					×

表3の注：

1. z/VM V4、V5、V6 はエンジン・ベースの IPLA であり、月額使用料金は適用されません。ただし、z/VM 環境にある特定の VM ミドルウェアは表 3 の規則に従います。
2. VM または VSE 製品に FWLC、TWLC、zELC、GOLC の料金が設定されていない場合は、GMLC または ELC の料金方式が適用されます。

Linux ミドルウェア

Linux オペレーティング・システムは IBM 製品ではありません。Linux 環境で実行する IBM ミドルウェア製品は、IBM パスポート・アドバンテージ制度を通じて使用権が得られます。通常 Linux ミドルウェアの使用権は、エンジン・ベースのプロセッサ・バリュー・ユニット（PVU）を使用して料金設定されます。

バージョン間アップグレード

ライセンス・プログラムの新バージョンへ移行するお客様は、移行期間中にそのプログラムの旧バージョンを継続して使用しなければならない場合があります。状況によっては、移行期間中やマイグレーション期間中に旧バージョンの使用が旧バージョンの支払いなしに許諾される場合があります。MLC 製品では、バージョン・アップ単一料金（Single Version Charging：SVC）が利用できます。SVC が適用できるかの判断については、IBM 担当員にお問い合わせください。



© Copyright IBM Corporation 2011

IBM Systems and Technology Group
Somers NY 10589

Produced in the United States of America, 2011/07
All Rights Reserved

本書に記載のIBM製品またはサービスは、IBMがビジネスを行っているすべての国・地域では提供していない場合があります。日本で利用可能な製品、機能、およびサービスについては、日本IBMの営業担当員にお尋ねください。

IBM、IBMロゴ、IBM eServer、CICS、DB2、Domino、IMS、Lotus、Multiprise、NetView、OS/390、Parallel Sysplex、Passport Advantage、S/390、System/390、System z、System z9、System z10、WebSphere、VM/ESA、VSE/ESA、z9、z10、z10 BC、z10 EC、z/Architecture、zEnterprise、z/OS、zSeries、z/VM、およびz/VSEは、International Business Machines Corp.の商標または登録商標です。

Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における商標です。

他の商標および登録商標はそれぞれ各社の所有物です。

IBMのハードウェア製品は、新規部品のみ、または新規部品と再製部品の組み合わせにより製造されています。いずれの場合であれ、IBMの保証条件が適用されます。

掲載写真は開発用および設計モデルを使用しています。生産用モデルには変更が加えられる可能性があります。

本装置は該当するすべてのFCC規則の対象で、納品にあたってはそれらを遵守します。

IBMの将来の方向性および指針に関するすべての記述は、予告なく変更または撤回される場合があります。これらは目標および目的を提示するためにのみ使用しています。

ZSO01378-JPJA-20